平和のためにできること

児童たちは「平和」について考えて、平和は一人ひとりの小さな心掛けや思いやり、相手を理解する気持ちなどからつくられていくものだと感じたようです。

そして、今、自分自身が平和のためにできることを教えてくれました。

児童たちが書いた平和のためにできることは「平和はみんなでつくるもの」だということを教えてくれています。

これらは誰にでもできる平和への原点なのかもしれません。

折り鶴がつなぐ平和への祈り

ニューヨーク日本人学校教諭
（西小学校教諭）
八木　由紀子 さん

2001年9月11日、全世界に衝撃を与えたアメリカ同時多発テロ事件（9・11）では、さまざまな人種の人が亡くなりました。

9・11の後、世界中から犠牲者の死を悼む花束やメッセージなどが送られて来て、その中に日本からの千羽鶴もいくつかありました。しかし、アメリカ人は、千羽鶴がどんな意味を持っているのか知らず、保管をしていました。

アメリカの人たちは9・11を忘れないために、さまざまな遺品や惨状を伝えるパネルなどを展示した「トリビュートWTCビジターセンター」をオープンしました。後になって、千羽鶴の持つ意味を知ったアメリカの人たちは、このセンターに千羽鶴を飾ることにしました。

この計画に関わった日本人が、原爆症で亡くなり「原爆の子」の像のモデルになった佐々木禎子さんの親族と連絡を取ったところ、思いもよらない申し出を受けました。それは「禎子が折った鶴は、今はもう5羽しか残っていません。だから、この5羽を平和の使者として五大陸に飾りたいと思っていました。1羽はニューヨークにプレゼントします」という内容でした。こうして、日本から時間と距離を越えて届けられた禎子さんの折り鶴は、今、9・11の被害者を追悼するセンターに飾られています。

私が担任している5年生は、社会科見学でこのセンターへ行きました。見学を終えた子どもたちからは「日本人が折った鶴のおかげで、アメリカの人に日本人の平和への思いが届くなんてとてもうれしいです」「小さなことでもいいから、何か行動することが大切なんだということが分かりました」との声。ニューヨークでの折り鶴との出会いが、子どもたちにアクションを起こす勇気と希望を与えてくれたのでした。

皆さんも身近なことから何か始めてみませんか。

佐々木禎子さんが折った折り鶴